

コロナ禍のなかでの子どもの学びの保証

(1) 休校期間中の学習について

ア. 休校中の家庭学習の検証：問題点と今後の課題

我孫子市は、政府の要請を受け3月3日から市内の全小中学校を休校にしました。市内の児童生徒は、6月1日に学校が再開されるまでの約3ヶ月間、家庭学習をすることとなりました。

家庭学習は、文部科学省の通知にしたがって教科書に基づく課題がだされました。

今回初めて経験する休校の長期化に伴い、先生方はもとより保護者にとっても、子どもたちの学びを止めないためにどうしたらよいか、試行錯誤の連続であったと思います。

休校中を通して、保護者からは「学習の遅れが心配」「家庭環境によって学力格差が広がるのでは」「課題をこなすために保護者の負担が大きい」「保護者に教師の変わりにはできない」「学校で学んでいないことも課題に出され困った」など、様々な声がありました。

特に学校に一度も行っていない新一年生や事情があって子どもの面倒を見ることができない家庭の保護者は、心配だったようです。

今後、第2波、第3波が予測されており、再び休校にならない保証はありません。with コロナの時代に今回の貴重な経験をしっかりと検証し、今後に活かしていただきたいと思います。

そのために、●休校による学習の遅れについて ●学校で学んでいないことを家庭学習の課題とすることについて ●休校中の学習の評価について ●家庭環境による学力格差の広がりについて ●保護者の負担について ●生活面での問題点について ●給食がなかったことでの問題点について ●児童虐待について ●子どもの貧困について検証を行い、結果をお聞かせください。

イ. 休校等による学習の遅れや学力格差拡大への対応

およそ3ヶ月という長い間、小中学校は休校となり、再開後も分散登校となりました。

休校中に家庭学習の課題は出されていたとはいえ、学習の遅れは否めません。また、家庭環境による学力格差の広がりも心配されます。

国では9月入学の議論もされていましたが、今回の学習の遅れをどのようにして取り戻すか、学力格差の拡大にどのように対処するか、大きな課題です。

教育委員会では夏休みを短縮して学習時間の確保を表明していますが、それで十分対応できるのでしょうか。

松戸市では土曜日の登校も決めたようですが、学習の遅れや学力格差に対する今後の対応策をお聞かせください。

(1) ICT教育の推進

ア. ICT教育推進の必要性について

これまでICT教育の推進が叫ばれてきましたが、諸外国に比べ大分遅れをとっていました。

そこで、昨年12月に文部科学省はGIGAスクール構想を打ち出し、2023年度までに全ての小中学校・高校・特別支援学校で、児童生徒一人1台の学習用端末と校内ネットワーク環境の整備をうちだしました。

その際に文部科学大臣はメッセージを出しています。「Society5.0時代に生きる子供たちにとって、PC端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。今や、仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。社会を生き抜く力を育み、子供たちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界からも遅れたままではいられません。」

「これまでの我が国の150年に及び教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの実践とICTとのベストミックスを図っていくことにより、

これからの学校教育は劇的に変わります。

この新たな教育の技術革新は、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するものであり、特別な支援が必要な子供たちの可能性も大きく広げるものです。」と ICT 教育の推進を訴えています。

また、今回のコロナ禍の中でも、休校の長期化を受けオンラインによる学習の保証が課題となり、政府は緊急経済対策の中で GIGA スクール構想の前倒しを決定しています。

with コロナの時代、休校時に遠隔授業で子どもたちの学びを保証するためにも ICT 教育の推進は待ったなしだと考えます。

ICT 教育推進の必要性、そして、我孫子市の ICT 教育のビジョン、ロードマップを教育長にお尋ねします。

イ. ICT 教育の環境整備についての市長・教育長の決意

まさに今が ICT 教育の環境整備をする千載一遇のチャンスだと考えます。先の文部科学大臣のメッセージは「この機を絶対に逃すことなく、学校・教育委員会のみならず、各自治体の首長、調達・財政・情報担当部局など関係者が一丸となって、子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に取り組んで頂きますよう、心よりお願い申し上げます。」と結んでいます。ICT 教育の環境整備に向けて、市長、教育長の決意をお聞かせください。

ウ. 「自ら学ぶ力」を育てる“オンラインホームルーム”についての提案

私は、先日、八千代市のオンラインホームルームを実現する会が主催した「学びをとめない！『自ら学ぶ力』を養うオンラインホームルームとは」と題した ZOOM による講演会に参加させていただきました。

講師は総務省のクラウド授業実践校である小金井市立前原小学校で“オンライン

ホームルーム”の実践者、蓑手省吾先生でした。

とかく私たちは、休校中は、これまでの学校での授業をそのままオンラインでやればと安易に考えがちです。

しかし、先生によると、それでは、すぐに子どもたちが「オンライン疲れ」を起こしてしまい、根本的な課題が生じてくるそうです。

“オンラインホールーム”は、これまでの授業をそのまま持ってくるのではなく、学びの種を撒き、子どもたちが思考を働かせ始めるために使うというのです。

休校中、インターネットを活用したオンラインの学びが大きく台頭し、インターネット環境整備が格差を生むと騒がれましたが、本当に露呈したのは、ネット環境整備の格差よりも自ら学び続ける力の格差だったのではないかと。

ネット環境やコンテンツがあっても、やらない子はやらない。そこで成否を分けるのは、自ら学ぶ素地を身につけているかどうかであり、学校で身につけさせなければいけない力は、「自ら学ぶ力」だったのではないかと“オンラインホームルーム”の取組を行っているそうです。

“オンラインホームルーム”は1.「完全自主性」2.「自分で目当てを設定する」3.「選んだものを否定しない」4.「宣言する」5.「学びの素材を提供する」6.「小まめなリフレクション」7.「共有する」こと。この7つの力を育むことによって「自ら学ぶ力」を育てるというのです。

with コロナの時代、再び休校措置が執られ、インターネットを活用した遠隔授業が必要になるかもしれません。

また、今後、ICT教育の推進にあたり、単にインターネット技術を活用するだけでなく、それを活用しながら教育の本質に繋がる「自ら学ぶ力」を育てるというオンラインホームルームの取り組みについて、是非、我孫子市でも研究していただき、これまでの教育実践とICTとのベストミックスでこれからの新たな教育を模索する一助にさせていただきたいと思います。教育委員会の見解をお聞かせください。